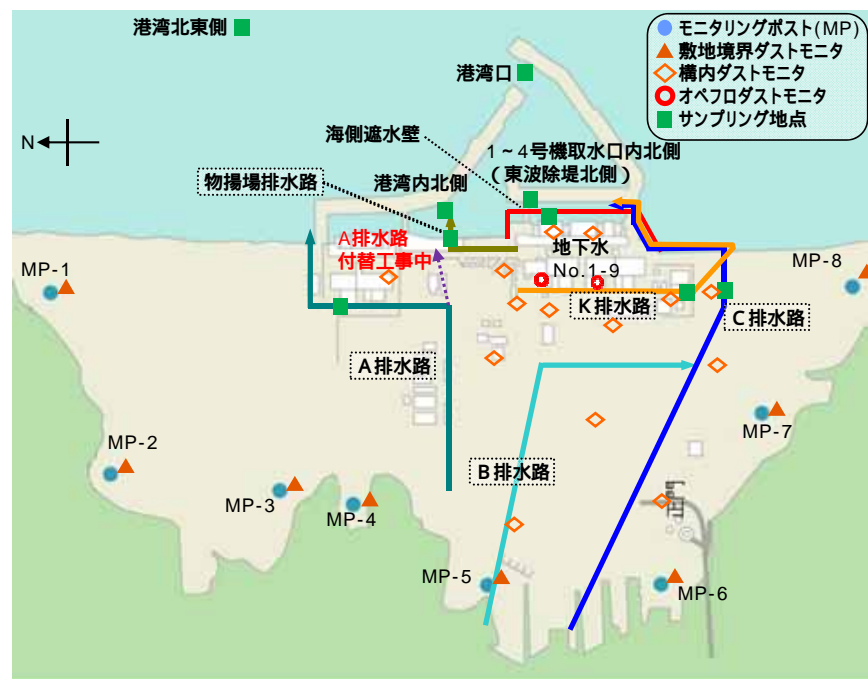
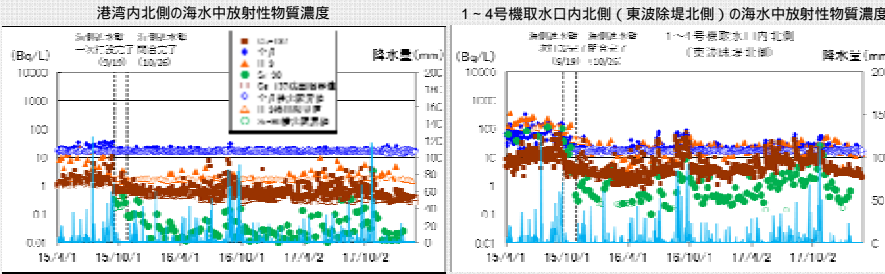


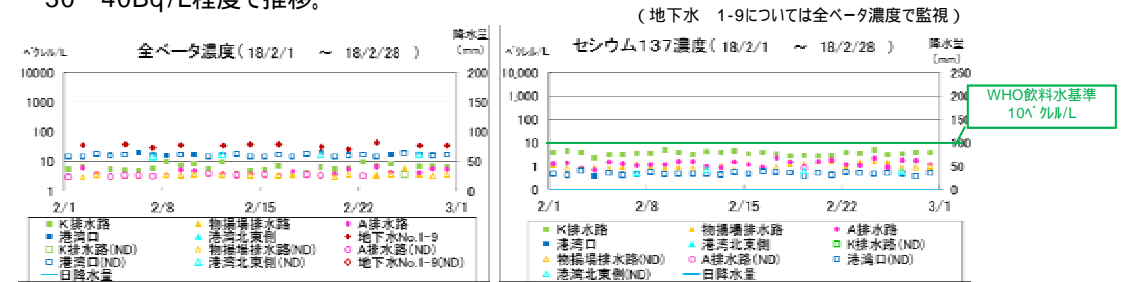
- 前回(2月1日)以降のデータ公開数は約10,763件  
前回以降、「周辺の放射性物質の分析結果」「日々の放射性物質の分析結果」のデータ約10,763件を公開しました。
- 敷地内ダスト(粉じん)濃度は安定  
1号機では、2017年12月19日、カバー柱・梁取り外し改造、防風フェンス取付等工事を完了し、2018年1月22日より原子炉建屋上部にあるオペレーティングフロアのカレキ撤去を行っています。2号機では原子炉建屋屋根保護層の撤去、3号機では燃料取り出し用カバーのドーム屋根が完成しました。1号機のがれき撤去開始後も、これまで同様、敷地境界を含め、敷地内ダストモニタのダスト濃度に有意な変動は確認されていません。今後も、飛散抑制対策の実施とともにダスト濃度の監視をしっかりと継続していきます。
- 港湾内海水の放射性物質濃度は低い濃度で安定  
2月は降雨がほとんど無く、1~4号機取水路開渠内及び港湾内海水の放射性物質濃度は低い濃度で安定しています。引き続き、排水路の清掃や敷地全体の除染を行うとともに、港湾内の水質を監視していきます。



データ採取位置図(右のグラフA、B、Cは抜粋)

## A 水(海水、排水路、地下水等)

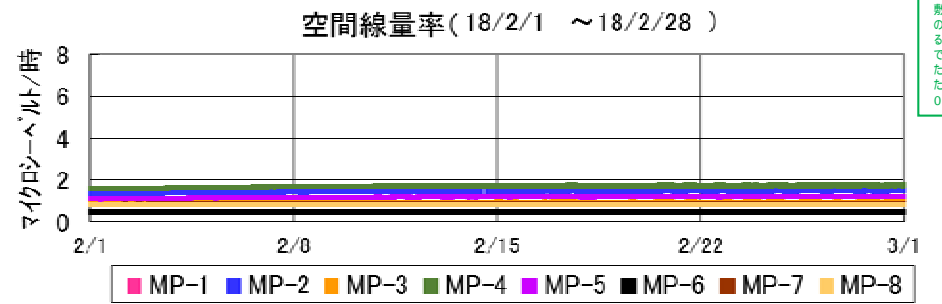
- 2月は降雨がほとんど無く、K排水路でも濃度上昇は見られなかった。
- セシウム137は、WHO(世界保健機関)飲料水基準を下回った。
- 10月の台風後に、地下水No.1-9で全濃度が100Bq/L程度まで上昇したが、海側遮水壁の内側であり、外部への影響は無いと考えられる。11月以降濃度は低下し、12月は50Bq/L程度だったが、2月も1月と同様30~40Bq/L程度で推移。



全ベータとは、ベータ線を放出する全ての放射性物質、カリウム、セシウム、ストロンチウム等が含まれる。海水の全ベータについては、天然の放射性カリウムが約12ベクレル/L含まれている。(ND)は、不検出との意味で、グラフには検出下限値を記載。

## B 空間線量率(測定場所の放射線の強さ)

- 低いレベルで安定。



敷地境界における1時間あたりの線量率を3マイクロシーベルトとすると、例えば1ヶ月間この場所で作業を行った場合(1日あたり8時間、20日間作業をしたと仮定)の被ばく線量は約0.5ミリシーベルトになります。

## C 空気中の放射性物質

- 大きな上昇はなく、低濃度で安定。

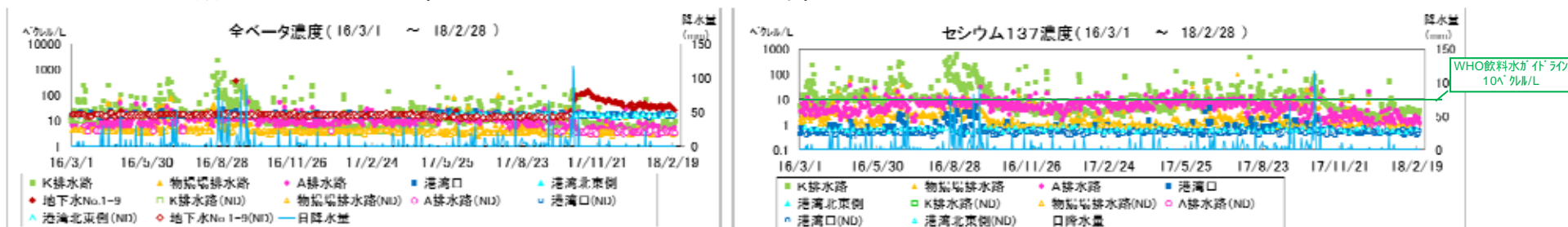


告示濃度とは、法令に基づき国が排出を認める濃度、国内の原子力施設共通の基準。

# 放射線データの概要 過去の状況

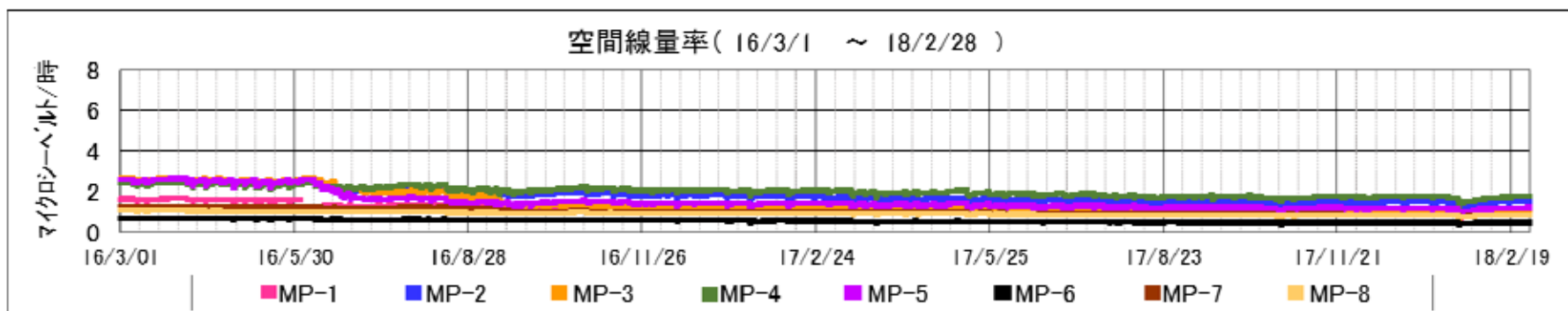
## A 水（海水、排水路、地下水等）

- ・港湾口は低水準で安定。セシウム137はWHO飲料水基準未満。
- ・K排水路の降雨時の濃度上昇は減少傾向。引き続き清掃等の対策を実施中。



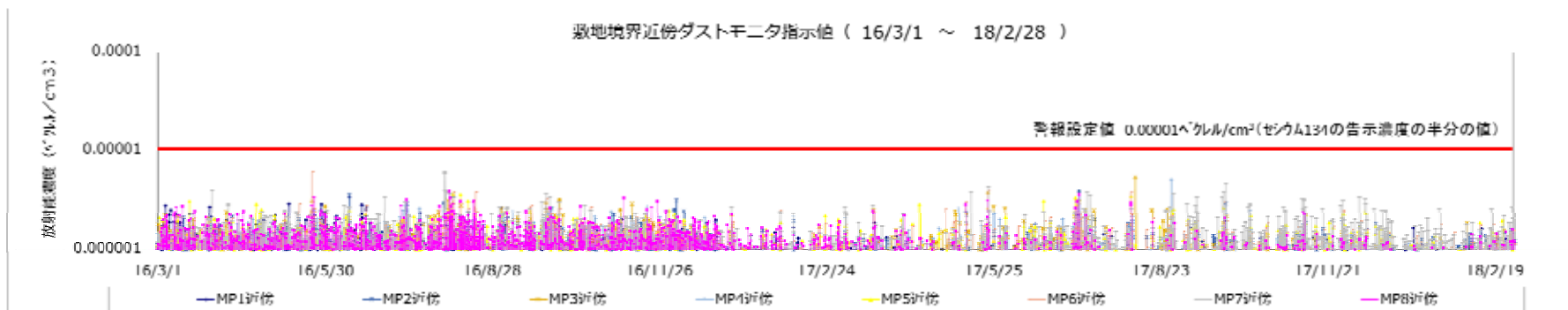
## B 空間線量率

- ・汚染水の浄化、除染、フェーシング等により、全てのモニタリングポストにおいて2013年4月の半分以下に低下。



## C 空気中の放射性物質

- ・ダストの濃度は、大きな上昇は無く、低濃度で安定。



# サブドレン・地下水ドレンによる地下水のくみ上げと分析

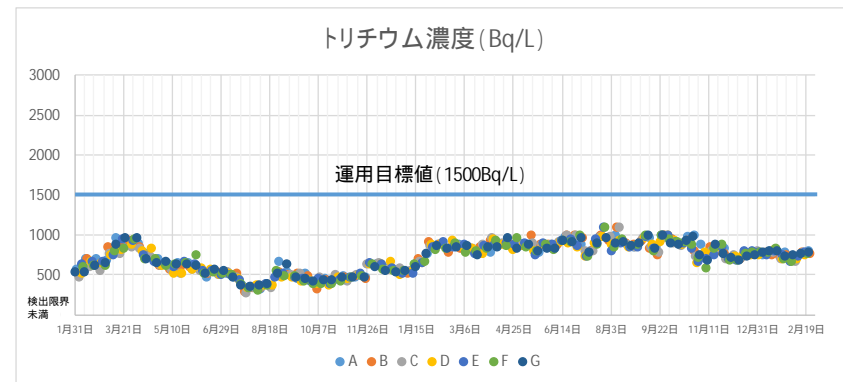
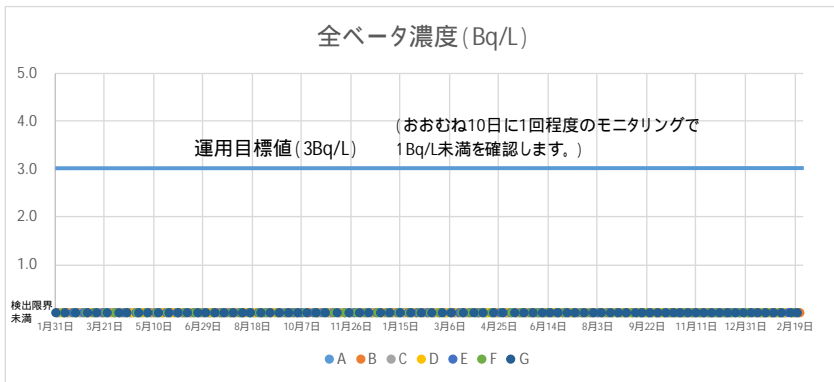
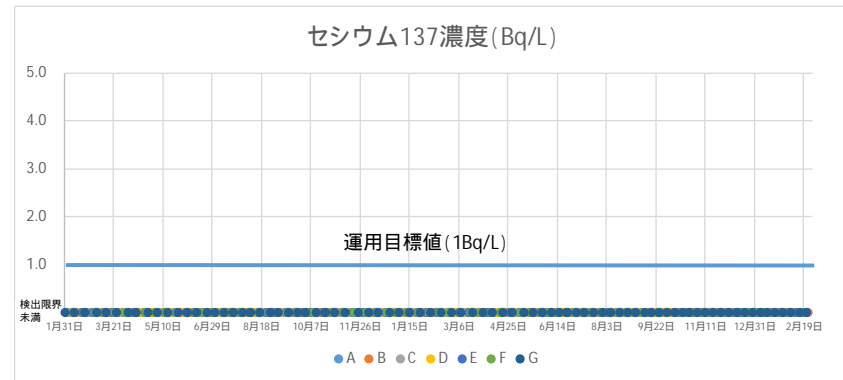
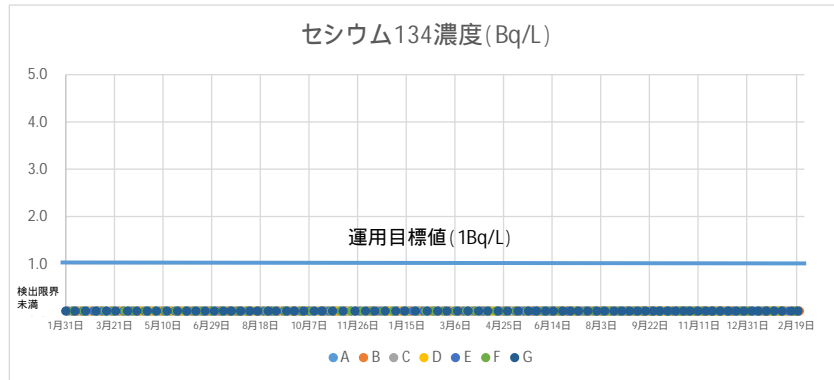
## 分析結果・排水の実績

一時貯水タンクに貯留しているサブドレン・地下水ドレンの分析結果で、セシウム134、セシウム137、全ベータ（ストロンチウム等）、トリチウムが運用目標値を下回っていること、その他ガンマ核種が検出されていないことを確認しました。

同じサンプルを第三者機関にて分析を行い、運用目標値を下回っていることを確認して、2015年9月14日から2018年2月28日までに合計637回、498,291 m<sup>3</sup>を排水しました。

今後も、分析結果が運用目標値を下回っていることを確認した上で排水する運用を徹底してまいります。

## 一時貯水タンクの分析結果（当社分析値）



サブドレン・地下水ドレンの分析結果の詳細については、<http://www.tepco.co.jp/decommission/planaction/monitoring/index-j.html#anc01sd>をご覧ください。

# タンクの漏えい監視・海洋への流出防止対策について

- これまで構内に設置しているタンクから万が一漏えい起きた場合に備え、多重的な対策を施してきた。現在フランジ型タンクから溶接型タンクへのリプレースを進めている。2018年度内に浄化処理した水は全て溶接型タンクで保管する予定。
- 今後も漏えいの監視および環境への影響がないような多重的な対策のもとで、適切に保管・管理を行っていく。

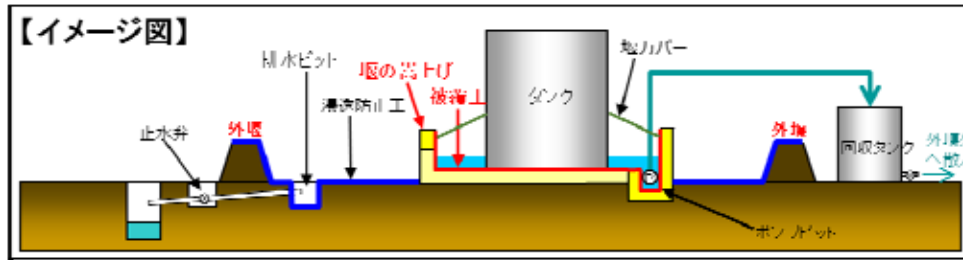
## 【タンクエリアでの対策】

- タンクパトロール① **溶接型 1～2回/日** **フランジ型 4回/日**  
(フランジ部や構造的に漏れやすい配管継ぎ手部などを重点的に実施)
- 水位計による遠隔監視② **すべてのタンクを免震重要棟で常時監視**
- 定期的な点検 **年に1回 (溶接型・フランジ型)**
- 堰の設置(嵩上げ、二重化、被覆など)③ **実施済み**
- 雨対策(雨樋、堰カバーなど)④ **実施済み**

## 【排水路での対策】 (タンクエリアを通るB・C排水路)

- 暗渠化により直接的な流入を防止① **2014年2月完了**
- 排水ルートを変更② **2014年7月完了**
- 排水路モニタによる漏えいの常時監視 **2014年7月運用開始**
- 電動ゲートによる迅速な排水路閉止③ **2015年9月運用開始**
- 枝排水路での微小漏えい検出器設置 **2016年10月設置**

### <タンクエリアでの対策>



③堰、被覆



④タンク堰カバー・雨樋

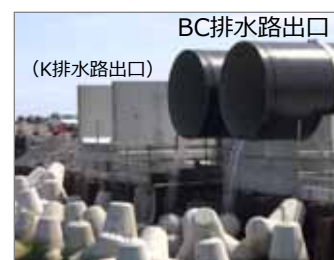


②免震重要棟での集中監視



①タンクパトロール

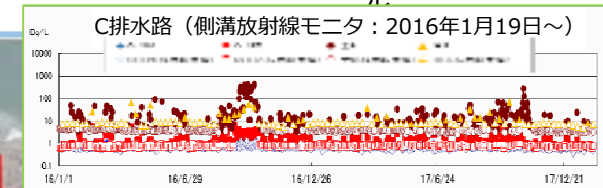
### <排水路での対策>



②付替後排水路出口



①排水路暗渠



③B・C排水路  
ゲート弁設置・電動化